

第2回彩都・中部地区開発戦略会議の結果について

日 時：平成21年3月30日（月）13時30分～14時10分

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル5階 501号室

出席者：小河副知事（大阪府）、野村市長（茨木市）、
福永西日本支社長（都市再生機構）、箕原社長（阪急不動産㈱）

1. 開会

2. 議事

（文中敬称略）

（事務局より資料1、2の説明）

事務局：これから委員の皆様方で質疑応答、意見交換をお願いしたいと思います。
副知事、よろしく願いいたします。

●関係者の現状について

小河：まず、各委員に状況を伺いたと思います。URの方はいかがですか。

<都市再生機構の方針>

福永：我々は「需要をしっかりと確認してからでなければ工事に入ってはならない」と言われていますが、今のままで企業に「出てください」と言ってもなかなか前に進みません。したがって、我々としても一歩踏み出して、需要を確認しながら、工事を進めながら、且つ需要を確認しながら、という形で今後、進めていきたいと考えています。

幸いにして、資料に書かれているように、これだけの企業に手を挙げていただいていますので、今の段階では抽象的ですが、この需要をしっかりと掴まえることによって、前へと進めていければよいと思っています。

<茨木市の方針>

野村：URの方で進出意向の企業の状況を調査していただき、それなりの企業が手を挙げていただいているところで、当然、土地利用の見直しも行われると思いますので、茨木市も、大阪府と連携して、都市計画の変更やいろいろなことに着手しなければならないと思っています。

また、今年の予算では、中部地区の山麓線に係る詳細設計に取り組んでいきたいと考えていますので、事業の進捗について、それぞれが役割分担を果たしながら頑張っていただければ、我々にとっても幸いと考えています。どうか、よろしく願いいたします。

<大阪府の方針、進出意向協定の締結時期について>

小河：府の方も議会で予算が認められ、議論の末「URが取り組まれるので、我々も行おう」という方向付けをしました。この時期ですので、開発に関しては慎重に慎重を期して行うということで、これからもいろいろな段階でチェックをしながら、この調査に向かっていくことを確認しています。

一つ伺いたいのですが、企業誘致の進出意向協定の締結はいつ頃でしょうか。

事務局：現時点では、申し込みをいただいて、都市計画の手続きや、企業によって計画の熟度も違いますので、そういう状況も踏まえながら、概ね1年程度を考えています。したがって、平成21年度末頃が一定の進出意向協定を結ぶ時期ではないかと考えています。

<阪急不動産株の方針>

箕原：経済状況が大変な中で、このように企業を誘致していただき、ありがとうございました。一地権者として、この方針に大賛成であり、推進していただきたいと思っています。また、我々が協力できる場所は、協力して参りたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●まちづくりコンセプトについて

小河：まちづくりのコンセプトに関して、前回の議論を踏まえて、ご意見はありませんか。
議会でも「西部地区にまだ空地があるのに、こういうことをするのか」という議論がありました。西部は住宅等については売っていますが、企業関係はまだ空いているためです。そういう意味では、中部地区は違った概念で進めることも議論になっています。
つまり、西部も誘致を進めてもらうことが大事ですが、中部地区は違った概念で、且つ、全体のコンセプトも守りながら進めていかなければなりません。そういう意味で、企業の希望があるのは有難いのですが、やはり大きなコンセプトは大事にしたいので、よろしくお願い致します。
また、前回、議論があった「環境」という切り口にこの事業が上手く乗って、他所とは違うことができるように、是非ともこれからさらにグレードアップしていただきたいと思います。

野村：「工業団地ができるのではないかな」などと言われる人がいますが、そういうことは決してなく、当初のコンセプトの流れを活かしながら、まちづくりコンセプトで書いていただいていることを目指して開発が進められると、地元市としても良いと思っておりますので、よろしくお願い致します。

小河：今は一般的に言われているようなことばかりなので、この地域にしかない、何か「売り」になるキャッチフレーズ等があると良いと思います。そういう意味で、上手く西部地区の流れを受けながら、ここで新たな「環境」という切り口ができると良いと思います。
今後、具体的な企業名が明らかになると、いろいろな議論ができると思います。今は盛んにクリーンエネルギーの話が出ていますが、太陽光発電の関連を入れるなどの取り組みも考えられますので、企業に負担をかけて進出意欲が削がれると困りますが、やはりイメージアップになるような、何か具体的なものを出していただきたいと思います。
その点について、事務局はいかがでしょうか。

事務局：前回の議論の中でも、特徴のあるものや「環境」というキーワードについてご意見をいただきました。今のお話にあった太陽光発電につきましても、最近、様々な助成制度や内容の充実等が見られるようですので、その辺りの状況もしっかりと把握しながら、企業の顔ぶれがもう少し見えてきたところで、進出される企業とも一緒に考えていきたいと思っています。
それから、西部、中部という地区を一体として彩都と考えており、ライフサイエンスパークも一つのまちとして協議会的なものを持っていますので、進出した企業との話し合いになります。できれば中部地区でもまちづくり協議会等をつくっていただいて、西部地区のライフサイエンスパークとも連携を図り、また、環境にやさしいという部分についても独自の取り組みができるようにしたいと考えています。

●進出意向企業状況について

小河：それから、進出意向企業が増えたということですが、どうなったのか、もう少し具体的に話はできませんか。

事務局：2月4日の第1回戦略会議の時と比較しますと、企業のカテゴリがどう変わったのかという特徴はよくわからない部分がありますが、登録企業15社に加えて、その後、表の⑯、⑰、⑱の企業が増えました。その内、⑰は前回の戦略会議時には一旦登録を取り消していた企業で、今回、改めて募集に応じる意向を示されて復活してきたところです。

全体について、申し込み予定、前向き調整中、その他については、個々の企業の事情がありますので、それぞれどれかという説明は、今回は差し控えさせていただきたいと考えています。

昨今、自動車関係の企業は非常に厳しい状況と聞いていますが、今回の申し込みに際しては、前向きに考えていただいていると理解しています。

●今後の進め方について

小河：これからの手順として、URの方は具体的な設計業務に入っていただけるのでしょうか。

<URの進行状況について>

福永：ここに書いてあるとおりでありますが、取りあえず、進入路・調整池等、準備のための工事と並行しながら、企業の立地動向を高めていきたいと思っています。法手続きもありますので、並行して進めて、最後に上手くいくのが一番良いと思っています。

<協定締結後の進出意向について>

福永：協定を結んだ後も手を挙げる企業があった場合、それは受け入れるのでしょうか。それとも、一旦切るのでしょうか。

事務局：どの程度、手を挙げていただけるかにもよりますが、基本的には、できる限りたくさんのお客様に来ていただきたいと考えています。「環境」や新たな取り組みの部分について、企業のジャンルではなく、トータルとして「これからの企業立地はこうでなければならない」というニーズを的確に捉えていきたいと思っています。

<府、市の方向性について>

小河：大阪府もURが取り組んでいただけるなら、調査の準備にかかろうと思っています。市も手続きを進められているということで、大きな方向としては、三者が前を向いて行くということであり、さらに、企業の実態をきちんとつかんで確実なものにしていくということです。

この時期のこのような開発ということで、非常に注目されていますので、その点は慎重を期しながら、且つ委縮せずにきちんと進めていくということを確認をしたいと思っています。

●まとめ

事務局：改めて、本日のご議論について整理をさせていただきたいと思います。

本日は、コンセプトの他にスケジュールや今後の進め方等をご検討いただきました。

◆開発整備の基本方針の確認

まず、開発整備の基本方針につきましては、中部地区について、社会経済情勢の変化を踏まえ、当初のコンセプトをご検討いただき、一部見直すということと、全体のコンセプトに留意していくというご発言をいただきました。

それから、彩都のシンボルゾーンとして、学術文化などに加えて、バイオを含む大阪産業の活性化、延いては、大阪の活性化につながる拠点づくりを目指すという方向について、ご確認をいただいたと思います。

また、これを受けまして、都市施設や宅地の配置につきましても、本日、資料でお示しました土地利用の基本計画に基づきまして、茨木市も含めて、都市計画等の所要の手続きを進めるということです。

その他、具体的な立地企業へのアプローチを進めながら、事業に着手をして、平成25年のまち開きに向けて、関係者が相互に連携して協力していこうということが確認されたと存じます。

◆コンセプト実現のためのルールづくり

また、関係者が連携してまちづくりコンセプトを実現するためのルールづくり、特に、議論でも出ていました、環境等の特色を活かしたまちづくりへの仕組みづくりにつきましても、今後、検討を進めていくことを確認したと思います。

◆各者の取り組み

また、開発整備の基本方針の実現に向けまして、各社からそれぞれご意見をいただきました。

URは、4月中に進出意向のエントリー募集を開始し、進入路工事等の測量調査に着手するという事です。

大阪府は、4月中には岩阪橋梁の測量調査開始の手続きに着手するという事です。

茨木市は、大阪府と連携して都市計画の変更内容の検討作業に着手するとともに、都市計画道路山麓線の詳細設計に着手していただくということです。

阪急グループは、地権者として事業推進にご協力をいただくということです。

このように、それぞれご意見表明をいただきました。以上を第2回戦略会議の成果として確認をしたいと思いますが、皆様、ご異論はございませんか。

小河：是非とも、このまちが環境面のモデルになるよう、言葉で書いてあるだけでなく、具体策として、少なくとも電柱のないまちや、新しいエネルギーを活用できるようなまち等、他所にない売れるようなものを実現する必要があると思います。

事務局：再度の熱い思いをいただきましたので、具体的なことについては、それらを実現するためのソフトも含めまして、これから事務局の方で検討して参りたいと思います。

それでは、本日、整理をさせていただいた内容でご確認いただいたということで、この会の終了後、ホームページ等で公開をさせていただきたいと思います。

それから、次回につきましては、前回は「順次節目ごとに戦略会議を開催する」ということでご確認をいただいています。まだ、次回の開催についてのタイミングは未定ですが、URのエントリー募集等もこれから行われるということですので、そのような進捗も見ながら、改めてご連絡をさせていただきたいと思います。

本日は、関係者が協力して事業を推進していこうということをご確認いただきました。

以上をもちまして、本日の会議を閉じたいと思います。ありがとうございました。

以上